

項目	番号	P(計画)	D(実行)	C(評価)	A(改善)	
					課題	今後の対策
発症の予防	1	【健康長寿政策課】 (生活習慣の改善) ・健康づくりロメモ(30秒テレビ広報、年間105回)による栄養・運動・ストレス・喫煙・飲酒・血管病の重症化予防・高血圧等の啓発 ・高知家健康チャレンジ(減塩、野菜、運動、節酒、禁煙)による健康づくりの県民運動の展開 ・高知家健康パスポート事業による健康づくりの県民運動の展開 ・推定塩分測定事業の実施 ・家庭血圧測定を勧めるため啓発 ・減塩プロジェクトによる減塩等の啓発 ・高血圧対策サポーター企業による高血圧の啓発	・健康づくりロメモによる啓発 栄養4回、運動6回、ストレス2回、禁煙3回、飲酒2回、血管病の重症化予防2回、高血圧3回(R3.9月末) ・11月からテレビCMや広報媒体、量販店や地域の関連団体と協働したプロモーション(高知家健康チャレンジ)を実施 ・高知家健康パスポート事業 健康パスポートアプリの改修による新たな生活様式への対応(アプリでポイント取得可能へ) 県広報誌やパンフレット等の広報資材を活用した事業の認知度向上とパスポート取得促進 アプリを活用したウオーキングイベントの開催(R2.10月、R3.1月の2回) ・29市町村で国保集団健診対象者に推定塩分測定事業を実施(通年) ・家庭血圧測定を勧めるための指導教材を作成し、医療機関、健診機関、市町村、薬局に配布(6月～7月) ・高血圧サポーター企業による高血圧予防の啓発(通年) ・減塩プロジェクト参加企業35社(スーパー、食品メーカー)による減塩の啓発や減塩商品の紹介などを展開(通年)			
	2	【健康長寿政策課】 (健康診断の受診率向上) ・市町村国保の40歳代前半、50歳、60歳をターゲットとした受診勧奨リーフレットの配布(7月) ・特定健診対象前世代の39歳をターゲットとした意識啓発リーフレットの配布(2月) ・特定健診情報提供事業を実施 ・特定保健指導従事者のスキルアップを図るため研修会を開催(6月初任者編、8月経験者編Ⅰ、12月経験者編Ⅱの3回) (ハイリスク者対象) ・高血圧・脂質異常の健診後未受診者・治療中断者への受診勧奨	・市町村国保の40歳代前半、50歳、60歳代前半をターゲットとした受診勧奨リーフレットの配布(7月) ・特定保健指導従事者のスキルアップを図るため研修会を開催(6月初任者編) ・モデル4市町で、AIが予測した治療後復帰率と重症化傾向から4つのセグメントに分け、ナッジ理論を活用した通知による受診勧奨を実施(10月)			
救急搬送体制・急性期の医療提供体制	3	【医療政策課・健康長寿政策課】 (急性期の医療提供体制整備と急性期患者の実態把握・分析) ・高知県脳卒中患者実態調査の確実な実施 ・調査結果の活用検討	・高知県脳卒中患者実態調査への新たな項目追加に向けた高知大学との連携 ・令和4年以降の調査にあたり実施要項を制定し、関係機関等の依頼に基づき調査データの提供が可能な体制の構築			
	4	【医療政策課】 (医師確保) ・賃付金制度や若手医師の育成、県外からの医師の招聘に向けた取り組みを継続する。	・将来県内の指定医療機関において脳神経外科医として勤務する意志のある学生に対し、奨学金を加算して貸与する。 ・脳神経外科に係る専門医の資格取得を目指す医師を指導する指導医に対し支援を行う。			
	5	【消防政策課・医療政策課】 (病院前救護と救急搬送) ・脳卒中プロトコルの適切な運用	・各消防本部において、脳卒中患者に対し脳卒中プロトコルに基づき活動			
	6	【高知中央・高幡・安芸医療圏脳卒中地域連携の会】 (地域連携・多職種連携) ・連携の会の認知と新規参入を促していく ・かかりつけ医との連携強化 ・すでに安定した取り組みをしている県の施設からの、医師やコメディカルによる講演(内容強化)の持続 ・高知あんしんネット上での運用に関する各病院との連携・情報共有の強化	・高知中央医療圏脳卒中地域連携の会合同会合の開催(全て、web開催) 1 高知あんしんネット上での運用について 2 高知あんしんネット上のバス運用の再確認 3 高知あんしんネット運用に係る不具合等の情報交換 4 連携の会の世話人会設置について 5 高知あんしんネット運用に係る情報交換			
	7	【幡多地域連携バス検討委員会】 (地域連携・多職種連携) ・高知あんしんネット上の地域連携バスを稼働させる。	・地域連携バス検討委員会はZoomによるオンライン会議を取り入れ、開催できている。 ・コロナの影響で、地域連携WG、施設訪問はできていない。 ・高知県統一の脳卒中地域連携バスの入力マニュアルを作成し、連携バス参加施設に対し説明会を行った。			
回復期～慢性期の医療提供体制	8	【在宅療養推進課】 (歯科医師・歯科衛生士の人材の育成) ・摂食嚥下機能を評価し、食支援への対応ができる歯科医師の育成 ・在宅歯科医療研修を継続し、歯科医療従事者の一層の資質向上を図る。	・多職種連携・口腔ケア等の在宅歯科医療に関する研修を実施(9/5)			
	9	【回復期リハビリテーション病棟連絡会】 (地域連携・多職種連携) ・活動目標を「原点に戻る」とし年間取り組みテーマを「参加・活動を念頭に置き、他職種を理解しながら各専門職の質を上げてチームアプローチを行う」とし、研修・会議等を実施する。 ・研修事業：2～3回、(新型コロナウイルス感染症の感染状況をみながらリモート研修会等を行う) ・看護師長主任会：Web会議やメールにて実施予定	・Web会議を活用した運営会議 ・看護師長主任会を継続して実施			
	10	【脳卒中患者の長期的機能予後予測に関する研究事務局 (高知大学)】 (回復期患者の実態把握・分析) ・集計データの送付依頼の継続 ・欠損データの最小化を目指す ・年間集計をR4年4月に行ない、医学情報センターにて解析、6月に報告予定	・回復期病棟データベース実行委員会での進捗管理 ・医療機関への協力依頼 ・回復期患者の実態把握・分析のための年間集計をもとに医学情報センターにて解析済 ・痙縮についてもデータ収集を開始			
	11	【回復期病棟データベース実行委員会 (回復期リハ病棟連絡会)】 (回復期患者の実態把握・分析) ・1月～5月、6月～10月、11月～12月の3期に分け、協力医療機関にデータ提出を依頼 ・集計結果報告を引き続き行っていく ・年度単位で見るとまだ提出されていない病院が多い状況もあり提出を促していく ・新型コロナ感染症の状況を見ながら実行委員会を開催していくようにする	・Web会議を活用した運営会議			